

紅葉の昭和記念公園

玉川上水の遊歩道から紅葉の昭和記念公園を歩く

撮影；川鍋正義、編集；川鍋正義／岡田正嗣、印刷；伊澤克夫

紅葉と落葉の舞い散る、秋の玉川上水と、紅葉の昭和記念公園を歩く。

このコースは平成 26 年 4 月に、第 13 回34あるく会「花の昭和記念公園」で歩いたコースです。 前回は春で、チューリップやポピーの花が咲き誇る昭和記念公園内を歩き、平成 28 年 10 月にはコスモスの丘を歩きましたが、今回は晩秋のウォーキングです。

1. 開催日： 令和元年(2019 年)11 月 16 日(土) 10 時集合
2. 集合場所： 東大和市駅
3. 歩行コース： (ト)はトイレ

東大和市駅(ト)→玉川上水駅(ト)→残堀川→昭和記念公園(昼食)→日本庭園(ト)

10:05 10:40 10:55 11:50 12:15 13:30 13:40 14:10

→ハーブ園→銀杏並木路→立川出口(ト)→みどりの文化ゾーン(解散)→(クラス会)

14:20 14:55 15:10 15:15 15:25

今回参加の皆様





野火止用水





玉川上水

残堀川





昭和記念公園で昼食





紅葉の日本庭園





みんなの広場を横断





黄昏の銀杏並木



紅葉の昭和記念公園; 歩行記

今日は朝から雲一つ無い真っ青な空で、風もなく素晴らしい秋晴れだ。 集合時間の 40 分前に、東大和市駅に行くと、駅の南側にはピンクの八重のサザンカが満開になっている。

やがて、木村さんが見え、矢沢さんが到着。 その後次々に懐かしい仲間が集まり、都内からは三澤さんや尾又さんが、那須からは大友さんも顔を見せてくれた。

集合時間の 10 時になったので、本日のウォーキングのコースの説明と、来春の次回の予定の説明を行った。 次回は第 25 回なので、以前に行った八国山にするか、大人気の高尾山にするか、昼食時に皆さんの意見を聞くことにする。 駅前のサザンカをバックに集合写真を撮り、参加者 17 名で、いざ出発！

都立薬用植物園の脇の、真っ直ぐに伸びる野火止用水の遊歩道を歩く。 ケヤキの並木は、未だあまり紅葉はしてないが、路にはかなり落葉があり、秋晴れの木漏れ日の中を落葉を蹴散らせながら快適に進む。 しかし、皆さんは久しぶりの再会で、おしゃべりに花が咲いており、なかなか歩くスピードが上がらない。 時々通過する西武線を横に見ながらの野火止用水遊歩道は、静かで気持ちが良い。

やがて、玉川上水が地下水路で東村山浄水場に送られる分水所に出る。しかし、分水所に流れ込んでいる玉川上水の水は、青白く濁っている。 先日の超大型台風の影響か、あるいはその被害箇所の修復工事のためだろうか。 そして間もなく玉川上水駅に到着。ここでトイレ休憩としたが、トイレが少なく、駅舎の方に行った仲間もあり、かなり時間がかかってしまった。 矢沢さんは、昔の会社の仲間がここでバスの案内人をしており、親しく雑談。(10:40—10:55)

玉川上水駅からは、玉川上水の北側の遊歩道を歩く。今日は秋晴れなので、直射日光は暑いが、木漏れ日の遊歩道は快適だ。 右に国立音楽大学の学生寮を見ながら歩く。 この辺の玉川上水は勢いよく流れているが、やはり青白く濁っている。 時折、カモが泳いでいる。

やがて「宮の橋」を過ぎ、砂川 3 番の「金比羅橋」に出る。 ここは交通量が多く、車優先の交差点のようで、我々直進の歩行者は、歩道を 3 回渡らなければならず、3 回の信号待ちであり、不便だ。 歩く速度が比較的速い人と遅い人が、少し離れてしまったが、時々小休憩を取り、一つにまとまった。 金比羅橋から 500m 程は、玉川上水が大きく曲がりくねっているが、この辺は立川断層が通っており、江戸時代に玉川上水を作る際に断層をうまく乗り越えるために、最適なルートを選択したのだろう。

右に西武拝島線の西武立川駅や広大な畑を見ながら進むと、やがて残堀川に出る。 残堀川は、瑞穂町の箱根ヶ崎の狭山池から流れ出ており、昭和記念公園の中を通り、

多摩川に合流している。多摩川上水は、この残堀川に直交しており、上流から流れてきた水は残堀川の手前で地下に潜り、残堀川の下を通過して反対側から再び地表に出て、流れ下っている。サイフォンの原理を使ったもので、江戸時代に1年足らずで玉川上水を羽村から江戸まで造った際に、このような工事を行っていたのには感心させられる。ここで小休憩。(11:45—11:55)

ここからは残堀川の桜並木の遊歩道を歩く。川には水はほとんど流れておらず、草が生い茂っている。我々は昭和記念公園の玉川上水ゲートに向かっているが、途中参加の郡さんは砂川口にいますので、連絡を取り、公園に入場して日本庭園で待ち合わせすることにした。多摩川上水ゲート付近は、以前には雑草が生い茂り、かなり乱れていたが、今はすっかり整備され芝生の広場が広がり、大きな道も出来ており、見違えるように綺麗になっている。(12:15)

昭和記念公園の入園料は、20名以上の団体と我々のようなシルバー共に210円だ。そこでシルバーとして伊沢さんが一括して入場券を購入して入場した。少し坂を登って「こどもの森」の高台に出ると、右手には白いフアファの「雲の海」があり、沢山の子供達が大はしゃぎしている。我々も乗ってみたいと思ったが、乗れるのは中学生以下に限られていたので断念！坂の前方には岩のピラミッドがあり、登ってみたかったが、もう既に12時を過ぎており、郡さんも待っているので、先に進む。売店のある森の家から木道の上を進み、日本庭園の正門に出る。郡さんは別の入口にいたので、連絡を取り合流し、総勢18名となった。(12:45)

日本庭園内は沢山の方がおり、飲食禁止であったので、昼食はみんなの広場の桜の木の下で食べることにした。ここまで秋晴れの下を長距離歩いてきたので、お腹がペコペコで、オニギリの何と美味しいこと。お漬け物や御菓子の「おすそわけ」があり、新橋産からはお団子まで・・・もう満腹で食べきれない。(12:55—13:30)

昼食後、日本庭園に入場したが、見物客が沢山おり、大混雑をしているので、2時に出口で再集合することにして、園内はしばし自由見学とした。日本庭園に入ると、沢山のモミジが真っ赤に染まっており、秋晴れの日射しに色鮮やかに燃えている。特に日光に照らされた紅葉を逆行で見ると、色鮮やかに光り輝き実の美しい。休憩所の窓からは水面に映る紅葉が素晴らしい眺めだ。盆栽園には、よく手入れされた枝振りの良いモミジの紅葉が見事であった。池を一周して出口で集合する。しかし、やはり歳を取ると団体行動が嫌いな人がいるようで、集合時間が過ぎても数名が出て来てくれない。(14:10)

しばらくして、やっと全員が集合し、「みんなの広場」の中心を真っ直ぐに南に向かって縦断する。一気に歩き抜けて、広場の南端に行き待ち合わせたが、やはり数名が大幅に遅れてしまった。もう歩き疲れてしまったのかもしれない。10分ほどして全員が集合した。(14:20)

そこから残堀川の小橋を渡り、大きな池「水鳥の池」に出て、池の畔を歩く。今日

は天気が良く、土曜日なので池にはボートやスワンボートなどが沢山ひしめき合っており、賑やかだ。その池をバックに、写真マニアの集団が、女性のモデルを立たせて撮影会を行っている。我々は敢えてそのモデルさんの前をゆっくりと通り過ぎる。水鳥の池の東端まで来たときに、約半数のメンバーが付いてきてないことに気づいた。すると、伊沢さんから、「どっちに行ったの？」と電話が入る。「池の方に出て左折して下さい」と答えたが、行く方向が良く伝わらず、広場の方に戻ってしまったようだ。再び行き先の問い合わせの電話があり、とにかく立川口の方に向かうように伝え、しばらく待つことにより、やっと全員集合できた。(14:45)

出発のときに大きな声で合図をしなかったために、半数の人達が出発するのに気付かなかったのかもしれない。これからは出発などの合図を明確にし、笛なども活用した方が良いかもしれない。

ここから全員で立川口の方に進み、噴水の処まで来ると銀杏並木が真っ黄色に黄葉している。ここには見物客が極めて多いので、再び自由行動とし、出口で再集合することにする。銀杏並木は黄葉の真っ最中で、黄葉のトンネルのようになっており、少しづつ黄色い葉が散っている。ここには中国人と思われる外国人が極めて多く、外国語が交差しており、まるで外国に来たようだ。噴水と噴水の池に映る銀杏の黄色も実に素晴らしい。全員集合したところで、集合写真を撮り出口へ。(15:10)

公園を出て、昭和天皇記念館がある「みどりの文化ゾーン」に向かうと、もう夕方の4時近くになるというのに、公園に向かう人が極めて多い。このシーズンに、銀杏並木や日本庭園のライトアップのイベントをしているので、その入場者なのだろう。

「みどりの文化ゾーン」の広場には、沢山のテントが張っており、何やらイベントを行っているらしく、テントの間は真っ黒くなるほど人で埋まっている。この「みどりの文化ゾーン」の出口の処で、とりあえず解散とする。万歩計は約2万歩に達しており、今日は天気にも恵まれ良く歩いたものだ。(15:25)

解散後、JR立川駅北口の店「玉川」に入り、15名でクラス会を開催した。席上、伊沢さんからは、山登りの会やあるく会の写真を収録した写真集の出版の話と、その出版祝賀会の話があり、6時過ぎまで大いに盛り上がった。

なお、次回の例会の候補地については、「八国山」と「高尾山」では、「高尾山」の希望が多かった。しかし、次回は4月の土曜日なので、ケーブルなどが混雑する可能性があり、また、階段は登れないという人もいるので、候補地については更に検討することにした。